

アカマタ婿入

新城 平永 (1921・T10) 字宇座 (03:19)

さんがちさんにちー はまう はなしー
三月三日ぬ浜下りぬ話 てー。くれー、あぬー
うんかし うんかし ちゆい ちゆ あなく をう
昔、かーま 昔 て、一人ぬなー美ら 女 ぬ居てー
るぐとう。あんさ、其処ぬ 隣 にかい、またお婆が
めんしえーてーるばーてーや。

あんし、毎晩なー、うぬ 女 ぬ家にかい 男 ぬよ、
ちゆ しぬ ちえー
美らーが 忍り 来 しーしーしよ。なー、二人ぐーり
ーや 友達ぐわーけーなていねーらん。あんさぐとう、
うぬ 隣 ぬお婆さのー、「今日ん来る居がやー」で
いち、ちゃーこそこそ 話 ぐわーや聞かりんなたぐ
とうよ、「ちゃぬふーじー 男 やがやー」んでいち。

あんさーい、家からー飛出じやーい、「ちゃぬふー
じー 男 やがやー」んち、節穴ぬみーぐわーから見じ
ゆんでいさぐとうよ。あんされー、アカマターがるゴ
ー巻ちよ、うぬ 女 とう相向かいし 話 すんりんれー
や。あんさぐとう、うぬお婆なー魂 抜ぎていて、「ト
ーヒャー！なー大事なとーん」、あんさー家かい、な
ーすぐそーまりーし自分ぬ家にかいへーりんちよ。

なーちゃー
翌 日よ、くれーなーうりんかい言ち聞かさんでー
てーじ 大事するむんでいち。あんさーい、翌日あまためん
そーやーい、「いやー、あれー本当ぬ人間やんでい
る思とーるい」でいちさぐとう、なーうぬ 女 お、「何
が、本当ぬ人間でいち、何んかい言ちめんしえーが」
んち、なーまたうぬ 女 おうぬ 男 にかいまん惚りし
るうぐとう。あんさぐとう、「あれー化物るやんどー、
わん みー ん だま
私ねーくぬ目し見ちよーぐとうや、いやー騙さって
いるうぐとう、私が言し聞ちとうらさんなー」んち、
お婆が。

【共通語訳】

三月三日の浜下りの話だよ。昔、ずっと昔ね、ひとり
の美しい娘がいた。そして、隣にはお婆さんが住ん
でいたらしい。

そして、美しいその娘の家に毎晩のように美青年が
通いつめ二人は親密になった。いつもひそひそと話し
声が聞こえるので、隣のお婆さんは「今夜も来ている
な、どんな男かな」と、気になっていた。

そこで、娘の家の節穴から「どんな男なのかな」と
覗いたところ、とぐろを巻いたアカマターが、娘と向
かい合って話をしていた。「これはもう！大変」と、
お婆さんはびっくりして脇目もふらず家へ逃げ込ん
だ。

お婆さんは見たことを娘に話さないと大変なこと
になると思い、翌日、娘のところへ行った。「お前は、
あの男が本当の人間だと思っているの？」と聞くと、
娘は男に夢中になっているからね、「何を言っている
のですか。あの人が本当の人間ではないというのです
か」と返した。それで、お婆さんは、「あれは化物だ
よ、私はこの目で見たんだよ、あなたは騙されている
んだよ、私が言うのを聞いておくれ」と言った。

あんさーあぬ 芋 よ、昔 え 芋 積みんしえーたし
えーや、ヨウバーらんかい。「あぬ 芋 よ、針 んか
い貫ちて、あんさーうぬ 男 ぬ、またなーちかん 来 る
筈 やぐとう、うりが着物ぬ 裾 んかい、よーんぐわー
針 かんし、芋 や貫ちから、針 通 ちよーきよー。
外 りらんぐとうし 通 ちよーきよー」んち、あんし
習 しみそーちゃんてい。「まじ、私が言ぬ 通 い聞ち
よーけー、後 お分かいてぐとう」んち。

さぐとう、うぬ 男 あなー、うぬ 夜 おまた 来 い、
話 ん何んくい終わやーま、また帰てい行きえーる
ばーて。あんさぐとうよ、「昨晚ん 来 ていー」でい
ち、お婆さのー言みそーちゃぐとう、「あー昨晚ん 来
びーたん」「あんしえー、いやー私が言ちやるぐとう
しー」でいちさぐとう、「あんしえーびん」「とーあん
しえー、うりが行ぢえーん 所 お追てい行かりーぐ
とう」んち。

なー、針 貫かっているうぐとう着物ぬ 裾 んかい。
あんすぐとう、うぬ 芋 追てい行ぢやぐとうよ、石ん
中んかいよ、うぬ 芋 や入つちよーたんてい。あんさ
ぐとう、「とーなーなー、ぬしかてい見ちんてい、今
ねーなー正 体 や現わりーさ」んちよ、あんしうぬ
女 んかい言ちやれー、うぬアカマターぬ尻尾ぬ方
んかいよ、針 や貫かっとーたんねあたるばーて。あ
んさぐとう、見ちやれーちゃへーぬアカマターぬ
夫 婦 が其処んかいまた、ゴー巻ち座ちよーたんて
い。

昔は芭蕉糸を紡いだものをヨウバーラ（竹籠）に
入れていたでしょう。そこで、お婆さんは、「ヨウ
バーラに入っている芭蕉糸を針に通しておきなさい。
男は今晚も来るはずだから、悟られないようにそと
男の着物の裾に刺しなさい。針が取れないように刺し
なさい」と教えて、「とりあえず、私の言うことを聞
いておけば、後で分かるでしょう」と言った。

そしたら、男はその夜もやって来て、娘と語り合っ
て帰って行ったそうだ。それで、お婆さんが「昨夜も
来たね?」と聞いたら、「ええ、夕べも来ました」と。
「それで私が言った通りにやった?」とお婆さんが聞
くと、「お婆さんが教えた通りにしましたよ」と答え
たので、「それなら、その男の後を辿って行けるでし
ょう」と言った。

男は着物の裾に芭蕉糸を通したまま出て行ったの
でね。その糸を追って行くと、石垣の中へ続いていた
んだって。そうしたら、「さあ、石垣の中をのぞいて
ごらん、男の正体がわかるよ」と、お婆さんが娘に言
った。娘が覗いて見ると、そこには大きなアカマター
の夫婦がとぐろを巻いて座っていて、アカマターの尾
のあたりには針が刺さっていたそうだ。

あんさぐとう、なーうぬ ^{あなぐ}女 ^{たましぬ}おなー魂 抜ぎていて、
「ちゃーさらーましやいびーがやー。私ねーなー恥じ
かさーあいびーしが、^{うんじゅちゆい}貴方ー人んかい言やびーしが、
^{わね}私えうりが子持っちょーびーさー」んでい言ちえー
るふーじ。「懐妊とーびんどー」んりち言ちやぐとう
よー、「とーあんしえーなー、くりんなー私^{わーい}が言し、
いやーや聞かんねーじゃーふえーすんどー」でいちよ。
あんさーい、「浜^{はま}んかい下りてい砂^{しなく}踏らみてい、あ
んさーい、波^{なみん}向かていや砂^{しな}あ三回蹴^{みけーんき}やーい、あんさ
ーい潮水^{すー}んかい足^{ひさん}濡らちゃーい、あんし、いやーや家
かい帰^{けー}てい来^{くー}よー」んでいちさぐとうよ。

あんしされーや、浜^{はま}ぬ砂^{しなく}踏らみてい三回^{みけーんあま}彼^あ処^まん
かい蹴^きたれーよ、アカマター七匹^{ななちう}墮るちえーたんりぬ
^{はなしー}話 やるばー。あんさーい、女^{あなぐ}お三月三日^{さんぐわちみつかー}や浜^{はま}
ぬ砂^{しなく}踏らみりていしえー、うりから^{うん}出じとーんでい。

それを見た娘はとても驚き、「どうしたらいいので
すか。私は恥ずかしいことに、貴方だけに話しますが、
その人の子どもを身ごもっています」と言ったようだ。
「妊娠しています」と言ったら、「そういうことなら、
私の言うことを聞かなければ厄介なことになるよ」と
言い、「浜に降りて砂を踏みなさい。そして波に向か
って砂を三回蹴って、その潮水で足を濡らして家に帰
って来なさい」と教えた。

お婆さんが教えた通りに、浜の砂を踏んで三回蹴つ
たら、アカマターの子が七匹墮りたそうだ。それで、
娘たちは三月三日には浜の砂を踏みなさいというこ
とだよ。